

# 平成30年度 環境保全報告書

株式会社 ロック・フィールド 神戸ファクトリー

## ①当該年度の重点取り組み目標・計画の実施状況

### ●省エネルギーの推進

《目標》 電気使用量を、年間8,080千kwh以下に抑制する

生産量増加に伴う増床・設備増加計画においては、期初計画どおりで推移。  
結果、5-10月で97.7%、11-4月では97.1%、年間においては97.4%となる。  
取組の主な内容として、館内照明の一部のLEDへの切り替えや機械の入替え、小集団活動等による省エネを推進。  
小集団活動では使用している機械の使い方、工程の見直しや生産集約による稼働時間の短縮などの工夫を重ね、目標を達成する

### ●廃棄物の削減

《目標》 動植物性残渣の発生を年間437.3t 以下に抑制する

小集団活動を中心に歩留まり管理などロス削減の取組みを行い、動植物性残渣削減を実施。  
自社の月間目標を4か月連続で未達を経験する。11月以降、活動内容を絞り込み、下期6か月連続で月間目標達成し、年間目標を達成する。前半102.6%、後半93.9%と活動内容が成果に繋がる。

### ●資源の使用の抑制

《目標》 水の使用を年間129.8 千t 以下に抑制する

小集団活動で使用している機械の使い方、工程の見直しを検証し節水を推進。  
各部署で構内容器の使用の仕方を見直し、洗浄枚数削減につなげた。  
一方、商品構成に変化があり、多品種少量生産による機械・器具・清掃に予想以上に水を使用することとなる。  
その結果、前期目標対比、101.0%、後期目標対比102.5%と目標未達となる。

## ②各種対策に係る計画

### 1)公害防止対策に関わる報告

#### 目標達成状況と達成のために講じた措置

	目標達成状況	目標達成の為の措置
大気汚染防止対策 大気汚染防止法の排出基準に関する条例等を遵守する ばい煙発生施設からの排出規制を遵守する 規制を遵守する	測定の結果すべてのばい煙発生施設(ボイラー)の排出が規制値内に収まった (規制値および測定結果は下記参照)	ボイラーを0.65MPaで運転 ばい煙発生施設の巡回 月1回のメーカー点検
水質汚濁防止対策 法令の遵守  非PRTR系物質で構成する薬剤の選択	排水の自主基準値を設定。 年間をとおして順調に推移  一部薬剤を残し、非PRTR系物質で構成される薬剤を選択  前年対比 75.8%	除外施設を適正に維持管理し、定期的に水質測定を実施  可能な限り非PRTR系物質で構成する薬剤への切替を実施
廃棄物対策 法令の規制遵守と適正処理発生量の抑制と再利用の促進	法令および適正処理に関して遵守できた 廃棄物発生量 前年対比 100.0% 原単位前年対比 101.2%	法令の規制を定期的に確認し遵守につとめる 小集団活動によるは廃棄物発生抑制 歩留まり管理 原材料の効率的な活用

#### ※排水にかかわる自主規制値

項目	自主規制値	
PH	5~8	神戸市下水道条例による数値を上回る水質
BOD	180以下	水質使用料徴収の非該当値内
SS	180以下	水質使用料徴収の非該当値内
ノルマルヘキサン	5以下	水質使用料徴収の非該当値内

調査結果

●ばい煙測定値

測定年月日

H30年8月およびH31年1月測定

1月測定値

1月測定値		ダスト濃度	窒素化物濃度
規制値(猶予中)		0.1g/m <sup>3</sup> 以下	150volppm以下
測定値	ボイラーNO1	0.0020mg/m <sup>3</sup> N未満	27ppm
	ボイラーNO2	0.0018mg/m <sup>3</sup> N未満	21ppm
	ボイラーNO3	0.0017mg/m <sup>3</sup> N未満	25ppm

●排水

		管理基準値	最大測定値	平均	測定回数	超過した回数	判定
目(設法) 生定令 活項排 環目水 境目水 項準	PH	5~8	7.6	7.2	365	0	○
	BOD	180以下	130	48	51	0	○
	SS	180以下	110	52	51	0	○
	ノルマルヘキサン	5以下	3	0.45	51	0	○

2)地球温暖化対策

1電気・燃料等の使用予定量および使用実績

区分	燃料・焼却物等の種類	29年度使用量	30年度目標	30年度使用量	単位
燃料	都市ガス	838,737	880,673	888,953	Nm <sup>3</sup>
	その他(廃棄物等)				Kg
	電気事業者から供給された電気	9,029,180	9,895,760	9,339,780	kwh
	熱供給事業者から供給された熱				
	原油換算	3,296	3,568	3,435	KL

2二酸化炭素排出削減目標に対する達成状況

単位:t-CO2

温室効果ガス	30年度排出目標		※排出実績
二酸化炭素	電気	4,020	4,080
	ガス	1,850	1,940
	計	5,870	6,020

生産量の増加に伴い、電気・ガスの使用が増加し、原油換算量も増加となった

しかし、省エネルギーの取組成果はでており、原単位(対在庫量)ベースでは削減することができた

3) 公害防止対策地球温暖化対策以外の環境保全活動にかかわる目標、計画と実施状況

分野	項目	目標	実施状況
事業所等での廃棄物の適正処理	コピー用紙の使用削減	小集団活動による見直し	小集団活動により裏紙使用、両面使用を推進
	作業のペーパーレス化	ペーパーレス化への移行	スキャナー活用 裏紙活用の推進 データ配信によるペーパーレス化
	適正処理	新規取引先を含めた処理場視察	視察計画に沿って中間処分場の視察を実施(3か所)
	分別	教育による徹底	継続して徹底
再生製品の使用		再生製品の使用率向上	再生製品使用
従業員教育	教育の年間計画策定	計画された教育の実施	実施
	環境に関する外部教育・セミナー参加	3人/年	7人/年
	小集団活動による主体的な取組の推進	重点目標の達成	
環境管理システムの充実	ISO14001認証継続	活動の改善	改善活動を継続
	内部監査実施	年2回実施	年2回実施
社外のとりくみへの協力	スイーツバイオマスの研究協力	継続した研究協力	定期的(週2回)な研究協力の継続

# 令和元年度 環境保全計画書

株式会社 ロック・フィールド 神戸ファクトリー

## ① 環境保全に関する基本方針

### 《環境理念》

私達は地球と自然を大切にします。

私達の事業は、お客様に提供するSOZAIを通じて豊かなライフスタイルの創造に貢献することを柱としています。

この事業で用いる材料、エネルギーはすべて自然の恵みを受けたものです。

自然の恵みを大切に、余すことなく活用することが、私達のSOZAIの価値を高め、さらに事業活動の意義を高めると考えます。

私達は地球環境に配慮した企業活動により、事業の発展と持続可能な社会の実現を目指します。

### 《環境方針》

#### 1.汚染の予防

生物多様性並びに自然生態系の保全に配慮し、環境法令・条例および自主管理基準の順守により環境汚染の未然防止に努めます。

#### 2.地球温暖化防止

地球温暖化への影響を配慮し、資源やエネルギーの効率的な使用に努めます。

#### 3.循環型社会の実現

リフューズ、リデュース、リユース、リサイクルの取り組みを通して循環型社会の実現に貢献します。

#### 4.継続的改善

環境活動の取り組みは計画的に行うとともに、必要な見直しを継続的に行い、改善を推進します。

#### 5.社会との共生

お客様、株主、生産者、サプライヤー、従業員および地域社会に対しての情報開示と対話を大切に、社会との共生に努めます。

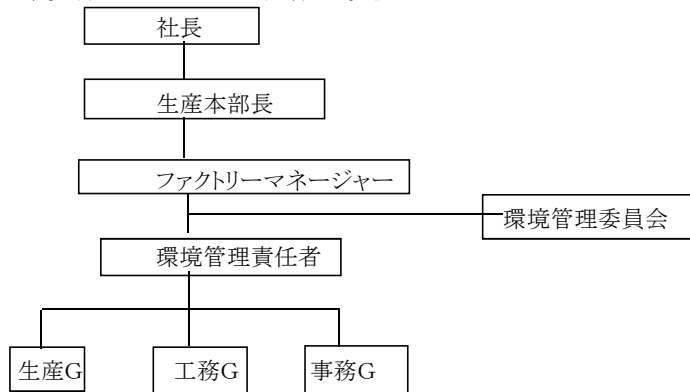
2016年8月

株式会社 ロック・フィールド

### (資料)

- ・リフューズ(Refuse) : 不要な物を買わない、貰わない、断ること。
- ・リデュース(Reduce) : ごみの発生量や資源の使用量を減らすこと。
- ・リユース (Reuse) : 一度、使ったものを廃棄せず、再利用すること。
- ・リサイクル(Recycle) : 一度使った物を廃棄せず、再び再資源化して利用すること

② 環境保全にかかわる組織の状況



③ 2019年度の重点目標・計画

- エネルギーの使用抑制
  - 《目標》 電気使用量を 年間 7,818.0 千kwh以下に抑える
  - 《目標》 ガス使用量を 年間 866.0 千kwh以下に抑える
- 廃棄物の発生抑制
  - 《目標》 廃棄物総量を 年間 756.0 t以下に抑える
- 資源の有効利用
  - 《目標》 水の使用量を 年間 123.9 千t以下に抑える

④ 各種対策に係る計画

1) 公害防止対策に係る計画

目標

	目 標
大気汚染防止対策	「大気汚染防止法」大気汚染防止法第4条第1項の排出基準に関する条例など法令を遵守する ばい煙発生施設からの排出規制を遵守する
水質汚濁防止対策	「水質汚濁防止法」「環境の保全と想像に関する条例」「下水道条例」などの法令の規定を遵守する。 できる限り非PRTR系物質で構成する薬剤を選択する
産業廃棄物対策	廃棄物の処理及び清掃に関する法律の法令の規制を遵守し、廃棄物の適正処理を行う。廃棄物の発生量を抑制するとともに再利用を促進する

ばい煙発生施設からの排出規制にかかわる目標値および管理測定計画

項目	自主規制値	目標値の根拠	定期測定の実施
1号機	規制値以下に抑える(但、規制値は現在猶予中) ダスト濃度0.10g/m <sup>3</sup> N 窒素化合物濃度150volppm以下		○ (2回/年)
2号機			○ (2回/年)
3号機			○ (2回/年)

排水にかかわる水質管理目標および監視測定計画

項目	自主規制値	目標値の根拠	定期測定の実施
PH	5~8	神戸市下水道条例による数値を上回る水質	○ (1回/日)
BOD	180以下	水質使用料徴収の非該当値内	○ (1回/週)
SS	180以下	水質使用料徴収の非該当値内	○ (1回/週)
ノルマルヘキサン	5以下	水質使用料徴収の非該当値内	○ (1回/週)

目標のために講じる措置・対策

大気汚染防止対策	ボイラーを0.65MPa以下での運転 ばい煙発生施設を定期的に工務Gの巡回にて監視 毎月1回メーカーによる点検
水質汚濁防止対策	除外施設の適正な維持管理につとめ、排水の水質測定を 定期的に行う。 PRTR法規制対象物質の排出抑制に努める 定期的な使用機器の保守管理
産業廃棄物対策	法令の規制を遵守し、法定の記録、報告を実施する 小集団活動により発生の抑制をめざす 分別を徹底し、適切なりサイクルを行う

2) 地球温暖化対策に係る計画

○排出削減目標前年度の電気・燃料の使用量及び今年度の使用予定量

活動の区分	燃料の種類	単位 発熱量	使用量(使用予定量)		単位
			前年度実績	今年度目標	
燃料の使用	都市ガス	45	888,953	866,000	Nm <sup>3</sup>
	その他				kg
電気事業者 から供給され た電気			9,339,780	9,334,581	kwh
熱供給事業 者から供給さ れた熱					MJ

○二酸化炭素排出削減目標

温室効果ガ ス		排出量(t- CO2)	削減目標
		前年度	今年度
二酸化炭素	電気	4,840	4,840
	ガス	1,990	1,940
	計	6,830	6,780

目標達成のための措置

生産量の増加に伴い、ファクトリーのスペースの増強や機械の増設を行うなど 増加要因が大きい。LED化、機械の運用方法の見直し、小集団活動による省エネ活動、 情報の見える化、熱効率のよいエネルギーへの転換などを通じ、増加要因を抑制して いく
---

3) 公害防止対策地球温暖化対策以外の環境保全活動にかかわる目標、計画

分野	項目	目標	
事業所等での廃棄物の適正処理	分別	分別の徹底	教育による徹底
	コピー用紙の使用削減	裏紙活用、両面化、集約化の推奨	継続実施
	作業のペーパーレス化	作業区のパソコン活用	作業のペーパーレス化
	適正処理	中間処理場の確認	視察計画に沿った処分場の確認
再生製品の使用	備品購入の際、再生製品を選択する	再生製品の使用率をあげる	
従業員教育	教育の年間計画策定	計画された教育の実施	
	環境に関する外部教育・セミナー参加	4人/年	
	小集団活動による主体的な取組の推進	重点目標の達成	
環境管理システムの充実	ISO14001認証継続	活動の改善継続	
	内部監査実施	年2回実施	
社外のとりくみへの協力	節電協力および スイーツバイオマスへの協力	提供量の見直し	